

# 第40回 東京ハイタク労連 定期大

二〇一三年十一月三日(日)第40回東京ハイタク労連定期大会が開催されました。

二〇一三年度の活動報告、及び一般会計報告が行われ、二〇一四年度の運動方針案について、討議されました。決定した運動方針の概要は以下の通りです。

東京ハイタク労連は運動を継続すること、  
『展望は自ら切り開く』という信念を持ち、東京産別組織として全国の労働者の先頭に立ち、『需給調整規制』『同一地域・同一賃金』の必要性を訴え続けて参ります。

規制緩和と政策に対する我々ハイタク労働組合が闘い続けたことにより、『世論・政治・行政』を動かし、タクシーも公共機関であると『タクシー適正化・活性化特別措置法』において明確に位置付けされました。



しかし、この措置法には法的強制力がなく、事業者の自主判断に委ねられ、適正台数に向けた減・休車率は18・5%にとどまり、タクシー乗務員の賃金の改善にはなっていません。

ハイタク労働者の賃金・労働条件を改善し『安全・安心』を担保するには、更に10%以上の減・休車の要求を今後も訴えていきます。

規制緩和と政策がもたらした弊害は、昨年2件の『高速ツアーバス』の事故でもわかるように、行き過ぎた規制緩和は公共交通産業に必要な、『安全・安心』を崩壊させる事が検証され、『新高速乗合バス』制度の改正が八月に行われ、再規制の必要性が明らかになりました。

昨年一月に逝去した故・田島委員長はかねてより、タクシー産業の問題の根本的な解決は道路運送法の抜本的改正、すなわち『タクシー事業法』の制定しかないと言っていました。『タクシー事業法』の制定は叶わぬものとはなりませんが、『適正化新法改正案』の早期制定と、その後の取り組みに向けて、三産別で組織する『ハイタクフォーラム』の精神と目的を共にする東京地域での組織化を強く望んでいます。

全国のハイタク労働運動の総力で、臨時国会に提出された『タクシー関係3法案』を制定させるよう全力を尽くします。

東京ハイタク労連はハイタク労働者の賃金・労働条件の改善と社会的地位の向上・輸送の安全確保を目指す運動体として、更なる運動・組織の強化を図り、真の公共交通機関の責任と自覚のもとに粘り強く前進を続けていきます。

任期満了に伴い、役員改選では、豊川昭憲副委員長(グリーン新町労組)が新委員長に就任し、金子博昭書記長(日の丸自動車深川労組委員長)が新副委員長に就きました。委員長、副委員長は定数内のため新任投票となりましたが、新書記長は今井委員長(日の丸自動車労組委員長)と福島進副委員長(東洋交通労組書記長)が立候補し、立会演説会の後、決戦投票となりました。

演説で今井氏は、『私鉄総連加入に際し、登録人員の削減を求め、先の私鉄関東ハイタク協議会臨時幹事会で登録人員削減が認められたものの、組織

『最大の目標はタクシー労働者の賃金労働条件を改善すること。それを実現するには地域協議会に全部の産別が参加し、多くの発言をしていくことです』と、  
演説をする福島書記長



運営を混乱させ、さらに労連が重点目標に掲げた組織拡大が思うようにいっていないことに対する責任をとり、委員長選への立候補を取りやめたが、今後は書記長として頑張っていく」と述べたのに対し、福島書記長は、『六年前、33回大会を行い、方針上の相違から交通労連を脱退し、『需給調整規制』『同一地域・同一運賃』を伝えること、また、台数規制を行うために、東京ハイタク労連は1年近く宣伝行動を続けるなどの大きな運動をし、自分達自身の努力で『タクシー適正化・活性化特別措置法』の基礎を作る役割を東京で果たしてきました。

しかし、今後『タクシー関係3法案』が通ったとしても、それだけでは安心できません。私たちの最大の目標は、タクシー労働者の賃金労働条件を改善することです。それを實現するには、地域協議会に全部の産別が参加をし、多くの発言をしていくこと。もうひとつは組織を拡大していくことが必要です。これからも、役員が先頭にたつて他の単組に東ハイへの参加を促す活動を積極的に行っていくべきです。

また、私鉄労連に所属していても私鉄内でのタクシーの位置はまだ低く、今後、タクシー産別の大きな統一をどう目指していくかという問題を、これからの2年間、委員長や副委員長を支えながら頑張っていきたい。』と熱い気持ちで演説を行いました。

しかし、結果は36票中、19票対17票で今井委員長が次期書記長となりました。今まで東洋交通労働組合は、東京ハイタク労連の先頭に立ち、故・田島委員長が委員長だった時には委員長単組として、また、委員長が亡くなり、今井氏が委員長代行、委員長に就任してからも、元委員長単組として経済的にも労力でも東京ハイタク労連の運動を支えてきました。

演説を聴いてもわかるように、何故、委員長として責任を取ると言った今井委員長が次期書記長に当選し、福島書記長が落選したのか?

東洋交通労働組合の活動と努力が否定された結果を、我々は容認することができません。東京ハイタク労連の会費は、加盟登録人数の多い東洋交通労働組合は大半を負担しています。組合員の皆様からお預かりしている大切な組合費の中から支払っている会費を、今後バーベキューや泊まりでの研修費用など、『仲良しごっこ』に使われることは断固反対します。

また、今後の活動においても、東京ハイタク労連が方針を厳格に行なっていかどうか、強い不信感を抱いています。我々は、今後も『タクシー労働者の賃金労働条件を改善』を世論に訴えていく運動を行うという精神を貫いていきます。